

明治43年大水害の写真

歴史を語るこの「いっぴん」
博物館の収蔵庫から

3

行田市域は利根川と荒川の二大河川に挟まれており、古来より水害から地域を守る治水対策は重要な課題でした。江戸時代の初期には江戸幕府により利根川や荒川の流路変更が行われ、北武蔵有数の穀倉地帯となり、「忍米」の名称が広く知れ渡りました。しかし、時として数十年に一度の大水害により、大きな被害を被ることもありました。

浸水家屋1千605戸、流失家屋21戸、潰倒家屋19戸、死者4人の被害がでました。写真は現在の商工センターの場所にあった北埼玉郡役所の前で行われた炊き出しの様子を8月17日に撮影したものです。大きな釜で煮炊きをしている様子や、小屋の中で給仕に当たっているとみられる人々が写されています。忍町役場では流失家屋や行方不明者の捜索にあたるのと同時に、新町にあった行田学校を避難所として開放し、町内4カ所で炊き出しを始めることとしました。県による炊き出しは14日夜から18日昼まで実施され、町内の商人らも独自に炊き出しを実施しました。

明治43年（1910）8月6日から14日にかけて関東地方を襲った二つの台風がもたらした豪雨は県内の各所の堤防を決壊させました。8月11日に決壊した中条村（熊谷市）の中条堤からの濁流は、前日に決壊した大麻生村（同）の荒川堤防からの濁流と合流し、市域に甚大な被害をもたらしました。忍町では



北埼玉郡役所前の炊き出しの様子

この水害を契機に政府は臨時河川調査会を発足させ、利根川や荒川の治水対策が大きく進みました。また、救助・復旧に係る行政事務の増大への対応は、町村間の連携を強めていくことにもつながりました。（郷土博物館 鈴木紀三雄）

ぎょうだ えん
行田のぞみ園エルピスホーム
(運営:特定非営利活動法人行田のぞみ園)

こんげつ へいせい 25 ねん 4 がつ
今月は平成25年4月にオープンした行田のぞみ園エルピスホームに行ってきたよ。ここでは障害を持った人が自立して生活できるように、現在7人が共同生活を送っているんだ。

ひるは 行田のぞみ園の作業所でお菓子作りに取り組み、夜はエルピスホームで過ごしているよ。利用者のみんなはいつも一緒にいるから、とっても仲良しなんだって。毎日のお楽しみは、ホームのスタッフが作ってくれる愛情たっぷりのご飯。リクエストや季節感を取り入れたさまざまな料理を振る舞ってくれるんだって。みんなで囲む食卓はにぎやかで楽しそうだね！

あか みにく 笑顔がすてきなエルピスホームのみんなは、行田のぞみ園のお菓子販売にも参加しているよ。見かけることがあったら、気軽に声を掛けてみてくださいね。

【住所】長野2-12-6 【電話番号】501-6270

こせに ちゃんが 行く!
with フラベス
福祉施設編



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

5月4日、さきたま古墳公園で開催された第31回さきたま火祭り。

ニニギの命とコノハナサクヤ姫が産屋に火を放つと、その炎は鮮やかに燃え上がり、会場では幻想的な神話の世界が再現されました(関連記事32ページ)。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています